

令和5年度 東京都立大島海洋国際高等学校全日制課程 学校経営報告

東京都立大島海洋国際高等学校長 大山 敏

1 今年度の取組と自己評価

(1) 教育活動への取組と自己評価

《校訓》 誠実 Faithfulness 礼節 Courtesy 協力 Cooperation 《教育目標》 海洋に対する真摯な姿勢と態度を涵養し、世界に広がる海洋を活躍する生徒を育成する。 《重点育成項目》 1 進路希望を一段高いレベルで実現する学力を育成する。 2 協調や協働の中で積極的に学校や寄宿舎での生活に取り組む主体性を向上させる。 3 水産や海洋に対する関心を高め、海洋に関わる課題を見いだし解決しようとする意欲を高める。

《数値目標に対する結果》

目 標 内 容	数 値 目 標	達 成 度
進路決定率	現役の進路決定率100%	84% 4年生大学・大学校 50% 短期大学・大学校 12% 専門学校 14% 公務員・就職 8% 未定 16%
GTECテスト	A-2 20%以上	17%
ICT等を活用した授業	80%以上	100% 全教員オンライン授業対応済み 全授業に対してのICTの活用状況 80%
生徒の学習満足度（基礎基本理解）	80%以上	75%（学校評価アンケート）
一級小型船舶操縦士資格合格率	40名	33名
特級小型船舶操縦士資格合格率	15名	14名
舎監長による寄宿舎生面接	100%	100%
保護者の満足度	80%以上	86%（学校評価アンケート）
部活動加入率	95%以上	全学年平均 90% 1年 82% 2年 92% 3年 96%
漢字検定	準二級以上20名	13名
英語検定	準二級以上30名	21名
学校ホームページの更新回数	150回以上	632回 （CMSの更新回数）
入試倍率	1.3倍以上	推薦1.71倍 学力 倍

(2) 取組状況

ア 進路指導：生徒一人一人の進路実現を図る。

- ① 学習ガイダンス・進路ガイダンス週間による生徒の意識調査の実施と、進路だより、進路講演会等の充実を図った。進路の手引きについて、キャリアパスポートを踏まえ各学年用の手引きを発行した。第3学年を中心に海洋・水産に関わる企業や機関と連携したインターンシップ、乗船実習中の上陸地における海洋・水産に関わる企業や機関の見学や課題学習を充実させた。
- ② 資格取得試験・模擬試験・進路講演会等の実施

潜水士 45名受験 36名合格 アーク溶接特別講習（特別教育）13名受講 13名合格
検定合格者は、漢字検定二級合格者6名、準二級7名、英語検定二級8名、準二級13名であった。
外部模試を4回実施、進路講演会を国際理解講演会を含め20回実施した。

- ③ 宅習・家庭学習の効果的学習体制の構築
寄宿舎における宅習時間50分×2回の巡回指導に努めるとともに、一斉帰省中の家庭学習課題への計画的な取組を促した。
- ④ 宅習時間を活用した講習・補講の実施
進路実現に向けた学校（放課後）やオンラインによる授業や補講を実施したことにより生徒の学習意欲が高まった。Wi-Fi環境の整備により宅習でのタブレット使用学習が浸透した。
- ⑤ A0入試、推薦入試、面接、小論文等専門分野に対する指導
A0入試における対策指導や小論文指導の他、オンラインによる講習会等を取り入れ一層の充実を図った。
- ⑥ 東京海洋大学、長崎大学水産学部、東海大学海洋学部との高大連携事業の実施
- ⑦ 東京海洋大学、長崎大学水産学部及び東海大学海洋学部によるオンライン講座等を実施し、国公立大学をはじめとする上級学校への進学意識を高めた。

イ 学力向上プランの推進と上級学校進学に向けた学力の育成

- ① 教科別学力向上推進プランの作成と学力を高める質の高い授業の実施
教員相互の1学期、2学期と複数回にわたる授業参観を通し、互いの授業改善、学力向上推進計画に基づく生徒理解、学力向上に努めた。
- ② 学習サイクル、授業改善サイクル、学習指導サイクルと学力向上推進プランの実行
学習サイクル（予習→授業→復習→確認テスト→フォローアップ）を実行し定着に努めた。
- ③ 教科における指導内容の確認と習熟度別授業、少人数制授業の活用
習熟度別及び少人数制授業を実施し、習熟に差のある生徒一人一人に学ぶ意欲を高めた。
- ④ 上級学校進学に対応できる年間指導計画、週ごとの指導計画に基づく教育課程の適正な管理
土曜授業を充実させ年間を通じて、乗船実習等で授業数の不足がないよう授業数を確保した。
- ⑤ 言語教育活動の推進
図書貸出数の増加、読書に親しむ生徒を目指して、各教科での言語活動を高める取組を実施した。

ウ 海洋や水産に関わる課題探究と課題解決に挑戦する志をもつ中核的人材の育成

- ① キャリア教育の実施
キャリア教育全体計画に基づき、海洋を素材とした課題探究を全生徒に求めた。外部人材や卒業生を招いての講演会を実施し、生徒の進路意識の向上が行われた。
- ② 総合的な学習の時間の実施
海洋や水産に関わる課題探究と自己理解・将来設計を結び付け、課題解決と進路実現に両立させた。

エ 規範意識、社会性、安心・安全を基盤とした人権意識を持つ生徒の育成

- ① 挨拶・遅刻・服装・装飾品・頭髪などの組織的な指導を実施
挨拶は地域からも評価が高い。服装・装飾品・頭髪での問題はない。遅刻回数は昨年度から減少した。細やかな生活指導、健全育成の醸成に成果があった。
- ② 全教職員による授業規律の徹底
生活指導部を中心に日常的な授業規律を確立し、授業における生徒の主体的な取組が見られた。
- ③ 生徒会活動及び部活動の活性化
部活動加入率は約90%。コロナ後で公式戦がが通常開催となり、校内でのトレーニングが活発化した。Sport-Science Promotion Clubとしてセ、一リング部が校内の部活動活性化に率先して取り組んだ。
- ④ 保護者や地域との連携の推進
HR担任、専任舎監との三者面談、校長と舎監長による全寄宿舎生のとの意見交換会を実施した。専任舎監及びHR担任と保護者との連絡を密にするように努めた。郷土芸能部の御神火太鼓による老人会や寄港外国船観光客との交流を行った。また、地域神社の例大祭で神輿を担ぐなど地域貢献を行った。
- ⑤ 学校保健計画に基づく学校保健活動の実施

アレルギー対策や特別支援教育の組織的・計画的な充実を図った。

- ⑥ 学校安全マニュアルに基づく危機管理体制と危険予知能力の育成
校内研修会の実施、寄宿舎における避難訓練を数年ぶりに実施した。5月13日の「安全指導の日」に命を大切にする指導をした。

オ 寄宿舎における自律的生活習慣の醸成

- ① 「挨拶・時間厳守・清掃・整頓・学習」を中心とした自律的生活の実施
生徒自らが挨拶をする姿勢が地域から高く評価されている。生活指導部と各学年が一体となり地道な生徒指導により、時間厳守、清掃について成果があった。
- ② 生徒代表（プリーフェクト）の育成
生徒の自律的生活習慣を支援する生徒代表（プリーフェクト）の育成を継続していく。
- ③ 棟別会議など生徒自らが運営する自律的組織の活用
専任舎監だけでなく学校舎監による各委員会への指導・助言等を行い、寄宿舎運営を推進した。委員会を通して生徒がより快適に生活できる環境づくりを推進した。

カ 水産や海洋に関する体験的な学習の推進

- ① 海・船に関する学習、シーマンシップの育成
1 学年の基礎航海学習では、洋上生活の基礎基本の指導とシーマンシップの育成を図った。
2、3 学年は、小笠原をはじめ全国各地への寄港とそこでの実習・見学・交流活動を充実させ、生徒の体験意欲を高めた。

キ 広報活動の充実と地域連携

- ① 学校ホームページで教育活動を適宜発信
学校ホームページの更新をこまめに行い、合同学校説明会への参加回数を増やした。
- ② 出張授業・上級学校訪問・体験乗船の推進

2 今年度の成果と次年度の取組

（1）学力・授業力向上

- 【成果】・学習サイクルの確実な実施と学力向上推進プランの実施、学力スタンダードの実施
- 【取組】・学習サイクルの継続と徹底。寄宿舎での宅習50分×2回の効果的な指導とタブレットを使った学習コンテンツ利活用の促進
- ・授業改善の工夫、オンラインによる学習補完

（2）進路指導・キャリア教育の充実と生徒の進路実現

- 【成果】・3年間を見通した進路指導の実施とインターンシップ等体験型キャリア教育の拡大実施
- 【取組】・進路指導・キャリア教育部と各学年との連携と役割分担の明確化
- ・学習・進路ガイダンスでの生徒理解と生徒情報の共通理解、進路実現に向けた個別指導の継続、キャリアパスポートを活用した進路指導

（3）安心・安全を基にした自律的な生活の確立

- 【成果】・寄宿舎を含む学校生活全般における基本的生活習慣の確立、人権尊重の精神の育成
- 【取組】・プリーフェクトの育成と生徒の自律意識の育成
- ・全校集会、寄宿舎指導での人権尊重教育の講話指導の実施
- ・寄宿舎と学校との情報共有と、スクールカウンセラーの活用

（4）危機管理の徹底

- 【成果】・安心・安全を念頭に置いた危機管理の徹底
- 【取組】・保護者や生徒の立場に立った危機管理の共通理解と意識の徹底
- ・安心・安全な学校づくりの継続
- ・個人情報管理の徹底

（5）広報活動の取組

- 【成果】・応募者数の安定化の実現
- 【取組】・学校ホームページの適宜更新と組織的広報活動の継続